

平成28年度第3回那珂市総合計画策定委員会 会議録

1 日時 平成28年11月15日（火） 午後1時30分から午後2時42分まで

2 場所 那珂市中央公民館2階 講座室

3 出席者

(1) 委員

山田義文委員、船橋利秋委員、根本衛委員、里口邦夫委員、海野藤男委員、金子巖委員、篠原恵子委員、綿引和雄委員、榊原直美委員、後藤京子委員、桐原浩彰委員、川又友美委員、富澤亜希子委員、勝井明憲副委員長、小島広美委員、田中廣雄委員、大森常市委員、宮本俊美委員長、大森信之委員、篠原英二委員、川田俊昭委員、桧山達男委員、菊池正明委員、加藤裕一委員、引田克治委員、植田孝二委員、山田甲一委員、飛田裕二委員

(2) 事務局

企画部：部長 関根芳則

政策企画課：課長補佐（総括） 浅野和好、課長補佐（政策企画グループ長） 篠原広明、係長 照沼克美、主事 古茂田勇太郎

(3) コンサルタント会社

株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所：

まちづくりプランナー 堀下恭平、まちづくりプランナー 塚田和司

4 欠席者

(1) 委員

平野道代副委員長、宮田経詔委員、峯島勝則委員、根本傳次郎委員、深畑早苗委員、高橋秀貴委員

5 会議内容

(1) 開会

○事務局（浅野課長補佐） 本日はお忙しいところ、お集まりいただき、誠にありがとうございます。定刻となりましたので、ただ今より、第3回那珂市総合計画策定委員会を開催いたします。

開催に当たりまして、宮本委員長より、ごあいさつを頂戴したいと思います。よろしくお願いたします。

(2) 委員長あいさつ

○宮本俊美委員長 皆さん、こんにちは。本日は、大変お忙しい中、第3回の総合計画策定委員会にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

前回は、8月の末に開催されたわけでございますけれども、その中で、市民アンケートの結果、それとワークショップでの結果についてご報告をした後にですね、総合計画

の基本構想の骨子案につきまして、皆様からご意見を頂きました。

その中で、市の将来像につきまして、少し文学的な表現が過ぎるのではないかというご意見を頂きました。そういう中で、委員会の後にですね、文章でもって皆様方からご意見を頂きました。そして、修正を図ったところでございます。

そして、先月の26日に総合開発審議会を行いまして、ここでも委員さんから、いろんなご意見を頂きました。そして本日、総合計画の素案をお示しすることができたわけでございます。今回は、まちづくりカフェや地区別座談会の結果、さらには、小中学生のまちづくり絵画展につきましてご報告をするとともに、修正がなされました総合計画の素案につきまして、もう一度、皆様からご意見を頂戴したいと思っておりますので、よろしくご協力のほどお願い申し上げまして、簡単ではありますが、あいさつとさせていただきます。どうぞ、よろしくお願いいたします。

(3) 報告

ア まちづくりカフェの開催結果について

○事務局（浅野課長補佐） ありがとうございます。

それでは、ここからの進行を、委員会設置規則第5条第1項の規定に基づきまして、宮本委員長にお任せしたいと思います。

委員長、よろしくお願いいたします。

○議長（宮本俊美委員長） それでは、早速、進行をさせていただきます。次第の3、報告になります。(1)まちづくりカフェの開催結果につきまして、事務局より説明をお願いいたします。

○事務局（篠原課長補佐） それでは、説明をさせていただきます。まず、説明に入ります前に、資料の確認をさせていただきますと思います。

本日の資料につきましては、事前に郵送等でお送りしているところでございますけれども、まず、総合計画策定委員会の次第、1枚ペラでございます。その次に、資料1 まちづくりカフェの開催結果について。次に資料の2、小中学生まちづくり絵画展について。資料3 地区別座談会の開催結果について（速報版）、資料4 第2回那珂市総合開発審議会における委員からの主な意見、資料5 第2次那珂市総合計画基本構想（素案）修正箇所抜粋、資料6 第2次那珂市総合計画基本構想（素案）修正後全文。以上でございます。不足等はございませんでしょうか。無ければですね、座って説明の方をさせていただきますと思います。

それでは始めにですね、まちづくりカフェの開催結果についてということでございまして、資料1のご説明をいたします。

まちづくりカフェにつきましては、職域や階層等によります市民の意見を把握するということを目的に、7月31日、それと8月7日に開催してございます。市民活動団体や商工会青年部、農業後継者クラブの方など、延べ63人の参加をいただいたところでございます。前回の会議の際には、参加者からの意見等がまだまとまっていなかったためですね、速報版としまして、皆様に開催結果ということでご報告したところでございます。

その後、参加者からの意見等がまとまりましたので、本日は、資料の2枚目、模造紙

上のメモ及び全体セッションでの参加者の感想、こちら全部で12ページにわたりますけども、この右側の全体セッションでの参加者の感想というところを中心に、説明させていただきたいと思います。

このまちづくりカフェにつきましては、基本構想の施策の大綱に基づいて設定しました、生活、福祉、文化・教育及び産業の四つのテーマについて、普段思っていることや感じていることなどを自由に意見交換しましょうというものでございます。

話し合いにつきましては、5人程度のグループに分かれまして、その参加者が途中でメンバーを入れ替えながら意見交換をする「ワールドカフェ」という手法を用いて行ったところでございます。テーブル上の模造紙に残された話し合いのメモ、それと全体セッションとしまして、最後に参加者から一人ずつ述べていただきました感想を、テーマごと、分野ごとにまとめたものが、こちらの資料となっております。

まず、テーマ1の生活でございますけれども、1ページの(1)コミュニティの分野では、「地域の人が、毎日、会話を楽しみながら生活できる地域が良い」「お祭りなどを一つの交流の場にすると、人と人とのつながりができる」など、地域コミュニティの活性化を望む意見ですとか、2ページにまいりまして、(6)環境の分野でございます。こちらではですね、「ゴミや不法投棄が多い。各個人が小さいことから気を付けて、きれいな、住みよいまちづくりを心掛ければよい」「身近なところからゴミを減らして、花の一杯あるまちにしたい」など、良好な生活環境を望む意見が多くございました。

次に、テーマ2の福祉でございます。4ページになります。(1)地域福祉・交流の分野でございますが、「一人暮らしの高齢者に学校に来てもらい、子どもたちにミシンなどを教えてもらいたい」「健常者、障がい者、高齢者が集まり、話をする場を作れたらよい」など、交流による生きがいがづくりや相互理解を望む意見。また、5ページにまいりまして、(3)障がい者の分野でございますけれども、「障がい者に対する態度について、みんなで考えなければならないと思う」「障がい者の差別問題について、市民に理解してもらいたい」など、障がい者への理解を望む意見が多くございました。

次に、7ページにまいりまして、テーマ3の文化・教育でございます。こちらの(3)地域・団体との連携の分野の意見が最も多くなっておりまして、「文化協会の茶道部として授業に出張すればよい」「小中学校で茶道などの日本文化を教える時間があればよい」8ページにまいります。「リタイヤした人たちが社会で勉強してきたことを子どもたちに教える場があるとよい」などですね、地域や市民活動団体などと連携した教育というものを望む意見がございました。

続きまして10ページでございます。テーマ4の産業でございますが、(1)農業の分野でございます。「消費者と交流できるような農業体験施設があればよい」「小中学生に体験させたり、話し合いや意見を述べる場を設ければ、興味を持ってもらえる」など、体験というものをキーワードに、農業後継者の育成を図りたいとする意見ですとか、11ページの(4)観光・特産品の分野でございますけども、「七運物語フェアで、七運野菜鍋のようなものを考えて売る」「商工会青年部と農業後継者クラブが連携して、那珂市をPRするようなものができればよい」など、観光資源の発掘や新たなPR活動につながる意見というものが多くございました。

以上がまちづくりカフェの開催結果となります。模造紙上のメモですとか、参加者の

感想の中には、具体的な意見も多数ございましたので、今後、総合計画の策定作業を進めていく上で、大変貴重なご意見を頂いたと考えております。

説明は以上でございます。よろしく願いいたします。

- 議長（宮本俊美委員長） はい、ありがとうございました。まちづくりカフェでのそれぞれの参加者の思いをそれぞれにストレートに書いていただいたものが、12ページにわたりまとめたものでございます。これに関しまして、何か感想等があれば、ご意見を頂きたいと思っておりますけども、どうでしょうか。

はい、どうぞ。

- 篠原恵子委員 交通安全母の会、篠原です。質問というか、感想というよりは、このカフェに参加しまして、私も発言して、それがここにちょっと載っていて、弁解しなければならないことがありますので、ちょっと聞いてください。

2ページ目です。真ん中辺に（5）交通安全とあります。そのメモ書きと、あと右側の感想と、全部私の発言なんですけど、左側のメモの方に、真ん中辺に「教育活動茨城ワースト1」とあります。これをこのままとすると、那珂市の教育全般の活動が茨城で一番悪いというふうにとられてしまうと思うんですが、私の発言の真意は、母の会活動、那珂市において、それが県下であまりいい方ではないという話を、ここで私しました。それがこういう表記になりまして、もし、那珂市の教育に関係している方が見たら、「なんですかこれは」ということになりまして、実際は、母の会のことを言っているということで、皆様に了解していただきまして、私の話し方が紛らわしくて、こういうメモ書きを取られたのだと思いますので、今後、この資料を使うようなことがあれば、この部分を削除して使っていただきたいと思ひまして、話をさせていただきました。

以上です。

- 議長（宮本俊美委員長） はい、ありがとうございました。

イ 小中学生まちづくり絵画展について

- 議長（宮本俊美委員長） そのほかございますでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、次にまいります。（2）小中学生まちづくり絵画展につきまして、事務局より説明をお願いいたします。

- 事務局（篠原課長補佐） それでは、小中学生まちづくり絵画展について、ご説明いたします。資料は2になります。

始めに目的でございますけども、この小中学生まちづくり絵画展は、市民参画の一環として、将来の那珂市を担う小中学生から、10年後の那珂市を描いた絵画作品を募集しまして、作品の展示を行うことで、市への郷土愛やまちづくりへの関心を育むことを目的に実施したところでございます。

応募規定としまして、題材を「10年後の那珂市」としまして、色材料は自由としましたが、子どもたちには、単に絵を描いてもらうのではなく、画用紙の裏面に、作品を描いた理由や作品に対する思いを記入してもらうことにしました。

各小中学校のご協力の下、夏休みの期間を利用して、作品を募集しましたところ、全部で67点の応募がございました。学年別に見ますと、小学生は5年生を除きまして、各学年とも10点を超える応募がございましたが、中学生は1点のみの応募ということ

になってございます。

これらの応募作品の中から、入賞作品の選考ということで、教育長と文化協会美術部会長、そして、この策定委員会からも、宮本委員長、勝井副委員長、平野副委員長の3名の方にご出席をいただきまして、計5名の委員による審査会を開催いたしました。審査会は、委員の都合に合わせまして、9月26日と27日の2日に分けて開催しまして、厳正かつ慎重な審査の結果、入賞作品として、優秀賞が9点、佳作が10点、計19点を決定してございます。

2ページをご覧ください。入賞作品数の学年別の内訳につきましては、記載のとおりとなっておりますが、入賞作品の一覧は、次のページからの別紙のとおり、写真でお示ししておりますけれども、このとおりとなっております。

いずれの作品も夢と希望にあふれる、すばらしい作品ばかりとなっております、作品を描いた理由、思いを見ましても、10年後の那珂市を真剣に考えてくれたということが読み取れる内容となっております。これは入賞作品に限ったことではございませんが、子どもたちが家族や学校の先生方と一緒に、那珂市の将来について話し合いながら作品を描いてくれたことは、大変ありがたいことだと感じているところでございます。

2ページに戻りまして、表彰式でございませうけれども、入賞した子どもたちに対する表彰式を10月29日の土曜日に市立図書館において開催いたしました。当日は、保護者や祖父母の方も多数ご出席されまして、教育長による講評の後、市長から子どもたちに賞状と記念品が一人ずつ手渡されました。始めは緊張した面持ちだった子どもたちも、最後に全員で記念撮影を行うころには笑顔が見られまして、子どもたちにとって思い出に残る表彰式になったのではないかと考えているところでございます。

また、10月26日からは、全67点の応募作品を展示する絵画展を開催しております。現在は、総合センターらぼーるのアトリウムで11月20日まで展示を行ってございます。

最後に、その他でございませうけれども、入賞作品につきましては、第2次那珂市総合計画に挿絵として掲載する予定でございます。

説明は以上でございませう。よろしく申し上げます。

○議長（宮本俊美委員長） はい、ありがとうございます。このことに関しまして、何かご質問がありましたら、お願いいたします。

（意見・質問なし）

ウ 地区別座談会の開催結果について（速報版）

○議長（宮本俊美委員長） よろしいでしょうか。それでは次にまいります。（3）地区別座談会の開催結果につきまして、事務局より説明をお願いいたします。

○事務局（篠原課長補佐） それでは、地区別座談会について、ご説明をいたします。

資料3でございませう。

地区別座談会は、総合計画の策定に当たりまして、今後のまちづくりについて地域住民の意見を把握するために開催したところでございませう。現在、意見等の整理をしているところでございませう、本日は、速報版としてご報告させていただきます。

座談会の実施に当たりましては、市内に八つある地区まちづくり委員会に大変なご協力をいただきました。始めに、各地区まちづくり委員会に座談会の開催可能日時について照会をいたしまして、日程調整を行った上で、改めて開催通知を送付しまして、地区まちづくり委員会や自治会の役員さんを始め、地域住民の方に幅広く参加していただけるようお願いをしたところでございます。

各地区の座談会の開催日時、場所及び参加者数につきましては、記載のとおりということでございまして、各地区とも、20人から30人程度の参加をいただき、合計で188人の方に参加していただいたところでございます。

座談会の内容でございますが、始めに、第2次那珂市総合計画基本構想（案）としまして、計画策定の趣旨や方針、市の将来像やまちづくりの基本理念などを説明した後にですね、計画策定の基礎の一つとなりました、平成27年度市民アンケート結果、こちらの概要も併せてご説明をしております。その後、基本構想の施策の大綱ごとに、参加者と事務局とが今後のまちづくりについて意見交換を行うという流れで座談会を進めてございます。

2ページ目をご覧ください。

当日の様子は、写真のとおりでございます。参加者の方は、日ごろからまちづくりを実践されている地区まちづくり委員会や自治会の役員さんが中心でございましたので、地域の実情に応じた様々な意見が出されたところでございます。

各地区の座談会で出された主な意見を基本構想の施策の大綱ごとにまとめたものが、資料3の別紙になります。こちらの方をご説明させていただきたいと思っておりますけども、まず、1の「みんなで進める住みよいまちづくり」では、地域コミュニティや移住・定住、シティプロモーション、市民との協働などの分野についての意見を頂いております。

神崎地区からは、自治会を退会する人が増加傾向にあることを懸念する意見や、人口減少社会に対応した計画づくりを求める意見、菅谷地区からは、防犯灯などの費用を自治会が負担していることについての意見や、コミュニティセンターの建設を望む意見がございました。

五台地区からは、自治会加入率の低下を懸念する意見があった一方で、高齢者宅の電気交換作業を自治会が行うようなことをすれば、加入率向上につながるのではといった意見がございました。

戸多地区からは、若者が減少する中で地域の将来を不安視する意見、芳野地区からは、空き家を地域で活用してはどうかという意見や、健康寿命をPRして移住者の増加につなげてはどうかという意見、瓜連地区からは、地域の集会所に対する施策の充実を求める意見がございました。

2の「安全で快適に暮らせるまちづくり」でございます。こちらは、防犯・防災、交通安全、環境、インフラ、公共交通などの分野についてのご意見を頂いております。

額田地区からは、常磐自動車道 東海スマート I.C. のフルインターチェンジ化を望む意見や、道路の整備促進を求める意見、区域指定制度に関する意見がございました。

区域指定制度とは、市街化調整区域であっても、あらかじめ条例により指定された区域内の土地であれば、集落出身要件などを問うことなく、誰でも住宅などの建築について都市計画法の許可が可能となる制度でございまして、現在策定中の基本構想の中でも、

「制度の導入により集落の維持・保全を図る」とうたっているところでございます。他の地区でも、区域指定制度につきましては関心が高いということでございまして、菅谷地区や芳野地区からも、この制度についての意見がございました。

このほか、菅谷地区からは、ひまわりタクシーやひまわりバスの土日運行を求める意見、芳野地区からは、公共下水道の整備促進や防犯灯の増設を求める意見、瓜連地区からは、災害時の連絡体制の確立を求める意見がございました。

続きまして、3の「やさしさにあふれ生きがいの持てるまちづくり」でございまして。こちらは、子ども子育て、高齢者福祉、障がい者福祉、地域福祉、保健医療などの分野についての意見でございます。

芳野地区からは、福祉に関する相談体制の充実・強化についての意見、木崎地区からは、健康寿命を延ばすためにサイクリングロードを整備してはどうかという意見、瓜連地区からは、高齢者クラブの必要性についての意見を頂いております。

裏面をお願いいたします。

4の「未来を担う心と文化を育むまちづくり」でございまして。学校教育、青少年、生涯学習、生涯スポーツ、歴史や文化などの分野についての意見でございます。

額田地区と菅谷地区からは、学校の統廃合に関する意見、戸多地区からは、児童・生徒の通学に配慮を求める意見や廃校になった小学校の利活用に関する意見、木崎地区からは、神社仏閣等を活用した文化振興についての意見がございました。

次の5ですね。「活力あふれる交流と賑わいのまちづくり」では、農業、商工業、雇用、観光などの分野についての意見でございます。

額田地区からは、高齢者の人材活用や女性の雇用創出についての意見、五台地区からは、企業誘致に当たっては道路の整備や税制優遇措置が必要だとする意見、戸多地区からは耕作放棄地の増加を懸念する意見、芳野地区からは、農業法人の誘致や新規就農者の確保による農業振興についての意見、木崎地区からは、大学の研究室誘致によるまちづくり構想についての意見がございました。

最後の6でございまして。「行財政改革の推進による自立したまちづくり」では、行政運営、財政運営、窓口サービスなどの分野についての意見でございます。

戸多地区からは、職員の資質が不十分であるとする意見、芳野地区からは、職員研修を充実すべきという意見がございました。

戻りまして、2ページ目をご覧ください。

座談会は、できるだけ多くの方から意見を頂けるように進めていたところでございまして、時間の都合で発言ができなかった方のために、資料と共に「意見シート」という用紙を配布しました。まちづくりについて日ごろ感じている課題や、課題を解決するためのアイデアを記入できるようにしまして、座談会終了後に回収したところ、全部で48件の提出がございました。意見の内容につきましては、現在整理中でございます。次回の会議の際に、改めてお示ししたいと考えてございます。

以上が地区別座談会の開催結果となります。

先ほどご説明しました今後のまちづくりについての意見は、主な内容でございまして、参加者の方からは、このほかにも、地域目線で様々なご意見を頂いたところでございます。従来からの市の課題に対する意見や、これから市が展開する施策に対する意見、課

題などを解決するための具体的なアイデアも頂いておりますので、今後の計画策定に十分に活かしてまいりたいと考えてございます。

説明につきましては以上です。よろしくお願ひいたします。

- 議長（宮本俊美委員長） はい、ありがとうございました。地区別座談会での主な意見をご紹介させていただきました。これに関しまして、何かご質問等がございましたら、お願ひいたします。はい、どうぞ。
- 富澤亜希子委員 富澤です。子育て問題で、参加者の年代というか、若い人はいたんですかね。どれくらいいたのでしょうか。
- 議長（宮本俊美委員長） はい、事務局の方からお願ひします。
- 事務局（篠原課長補佐） 今のは、座談会ですか。地区別座談会でよろしいですか。
- 富澤亜希子委員 はい。
- 事務局（篠原課長補佐） 地区別座談会につきましては、中心にお声掛けしましたのは、地区まちづくり委員会さん、それと自治会の役員さんということでございましたので、どちらかと言うと、現にまちづくりを推進されている方々という年代の方が多かったというのが実際のところでございます。今おっしゃっているような、例えば、若い世代の方とか、そういった方だと思いますけれども、そういった方はですね、数は少なかった。全くいなかったわけではないですけれども、現実的には、少なかったという状況でございます。
- 議長（宮本俊美委員長） 富澤さん、よろしいでしょうか。
- 富澤委員 その辺りでの意見、年代別での考えの違いというか、そういうのは、次に「若い人の意見を」と書いてあるんですけど、どうだったんですか。今後、若い人の意見をもっと聴いていくということはあるのでしょうか。
- 事務局（篠原課長補佐） まだ具体的にですね、何か計画をしているという段階ではないんですけれども、基本構想を今年度策定しておりますけれども、来年度には、より具体的に基本計画というものを策定してまいります。その際にはですね、若い方の世代、高校生であったりとか、大学生であったりとか、そういった方からですね、お声を聴く機会を設けたりとか、又は、ちょっと今回は実現できなかったんですけれども、子育てサークルさんの方にお声掛けをしまして、意見を聴いたりといったこともしたいと思っております。
- 議長（宮本俊美委員長） よろしいでしょうか。
- 榊原直美委員 私が以前に経験した話なんですけれども、先ほどの富澤さんの意見で、若い方と云って、以前なんですけど、一番上の子が昔、保育園とかに集まって、今はやっているか分からないんですけど、集まっているいろいろ遊びまじょう的なものがあったんですけど、その時に多分、市役所の方が来ていただいて、その時にお母様方にいろんな意見を聴いて、それで多分、「つぼみ」とかができたと思うんですね。そういうのは、今回、続けてやってられないのかなと思ったんですけども。
- 事務局（篠原課長補佐） はい、ありがとうございます。今年度は実現しなかったという部分はあるんですけども、今、正におっしゃっていただきました「つぼみ」さんの方にお声掛けをしまして、子育てサークルの皆さんと意見交換したいですという話をさせていただいて、ちょっと日程が合わなくて、今回実現できなかったんですけども、来年度は、

そういったことも含めて、子育て世代のお母さん方の意見を聴いたりですとか、又は、そういったサークルで集まっているところなどに、こちらから出向いて行きまして、話を聞く機会を設けたりということは、今後、進めていきたいと思っております。

○議長（宮本俊美委員長） よろしいでしょうか。大丈夫ですか。では、副委員長。

○勝井副委員長 こないだも申し上げたんですけども、今回の総合計画の策定に当たっては、いろいろと市民の方からいろんな形で、まだ少ないけども、若い人も少ないかもしれないけども、出張していただいているので、それはとてもいいことだと思っております。

こないだ、茨城新聞の編集部長にもこの話をしました。是非、取り上げてもらいたいと言ったんですけども。来たかどうかは知りませんが、とにかく、これだけいろんな人から、いろんなたくさんの方の意見をもらったんで、これからも取っていくんでしょけども、收拾がつかなくなるようなことがないように、庁内で作業部会のようなものをつくって、きちんとまとめる。総合計画策定の中に活かしてもらいたいということが一つ。

それから、策定が済んだらですね、どういう形で市民の方の意見を取り入れたか、ちゃんと広報かなんかで書いてもらいたい。こういうところ意見を頂いて、これは策定の中に取り入れたとかですね、意見にも非常に有望なもの、そうでないものもあると思いますけども、とにかく、どういうふうに取り上げたかですね、それをちゃんと市民が知るような形で広報してもらいたい。その二つをお願いしたいと思っております。

○議長（宮本俊美委員長） 事務局で。

○事務局（篠原課長補佐） はい、ありがとうございます。市民の意見を聴くということについてですが、今、勝井副委員長から茨城新聞さんのお話が出ましたけども、この前段にご説明いたしました、まちづくり絵画展の内容につきましては、表彰式の件につきましては、茨城新聞さんの方に取り上げていただいて掲載があったところでございます。

それともう一つは、どういうふうに進めいくか、ワーキングの話があったかと思うんですけども、今、出されております市民アンケート、それと市民ワークショップ、それとまちづくりカフェ、地区別座談会ということで今まで進めてきてまいりましたが、この内容を今まとめているところでございまして、それを庁内の、この策定委員会の下部組織になりますけれども、ワーキングチームというものがございまして、そちらの方に各課ごとに振り分けまして、市民の意見はこういうものが出ているよということを現場の職員にも分かっていただくような形で協議を行いまして、その内容をもって、この計画に反映させていくということを現在調整しているところでございます。

それと最後の公表という部分ですけども、どういった意見をどういったふうに取り入れたのかを示すということにつきましては、地区別座談会の中でも、そういったご意見を頂戴しているところでございまして、どういうふうに公表したら良いのか、今、検討している段階でございまして、広報に載せるのか、それとも地元にもう一度出向いて行くのか、その辺も含めてですね、どういった公表の仕方が良いのかという部分も検討していきたいと思っております。

○議長（宮本俊美委員長） よろしいですか。ありがとうございます。いろいろとご意見を頂きました。そのほかありましたらば。

今、頂いたご意見につきましては、今後、検討させていただきたいと思っております。

(4) 協議

ア 第2次那珂市総合計画基本構想（素案）について

○議長（宮本俊美委員長） それでは続きまして、協議に入らせていただきます。第2次那珂市総合計画基本構想（素案）につきまして、事務局より説明をお願いいたします。

○事務局（篠原課長補佐） それでは、第2次那珂市総合計画基本構想（素案）についてのご説明をさせていただきたいと思っております。

始めにですね、先日開催しました第2回那珂市総合開発審議会における委員からの主な意見ということで、資料4に基づきまして、説明をさせていただきたいと思っております。

この審議会につきましては、議会議員、教育委員会委員長、農業委員会会長、JA常陸の代表の方、商工会会長、大学教授などの学識経験者、計20名で構成する組織でございます。市長の諮問に応じて、第2次那珂市総合計画について審議し、答申することを役割としております。

10月26日の審議会では、これまで、この策定委員会で検討を重ね作成しました基本構想（骨子案）について審議をしていただきました。

審議の結果、一部文言の修正を求める意見はございましたけれども、骨子案については、おおむね了承いただいたということで事務局の方では考えてございます。

審議会の委員の皆様には、大所高所から貴重なご意見を頂きました。

1の「市民協働・男女共同参画」では、若い世代や障がい者などの意見を市政運営にどのように反映させるかが課題だと。今、ご質問にもあったとおり、若い世代の意見を聴くことの課題ですね、そういった意見ですとか、コミュニティの充実・強化について市の姿勢を問う意見などがございました。

2の「空き家対策」につきましては、空き家の増加を不安視する意見や、空き家の利活用についての具体的な意見がございました。

3の「交通基盤・公共交通」では、交通の利便性が低いことが市の課題であるとしまして、高齢者や障がい者が利用しやすい公共交通の確保が必要であるとする意見がございました。

4の「下水道」につきましては、下水道の普及が遅れていることを不安視する意見を頂いています。

裏面をご覧ください。

5の「地域福祉」では、超高齢化社会に向けて地域の見守り体制の確立を求める意見や、地域福祉の充実を図るに当たりまして、コミュニティの希薄化を懸念する意見がございました。

6の「観光・特産品」では、額田地区の郷土芸能である「たつつあい」など、地域資源の掘り起こしやその利活用についての意見がございました。

7の「行政運営」では、計画を策定する際の優先順位の必要性や、現在、水戸市を中心市として進めております定住自立圏構想を総合計画の中に位置付けるべきという意見がございました。

8の「人口減少・少子高齢化」につきましては、市の少子化対策を懸念する意見や、若い世代の移住・定住の促進を図るべきとする意見がございました。

以上が第2回那珂市総合開発審議会における委員からの主な意見となります。

審議会の委員さんからは、各分野について様々な意見を頂いたところでございますが、これまで市が実施してまいりました「市民ワークショップ」や、先ほどご説明しました「まちづくりカフェ」「地区別座談会」でも同様の意見を頂いているところでございますので、課題を解決するための事業をしっかりと総合計画に位置付けていく必要があると考えてございます。策定委員会の委員の皆様におかれましても、審議会での意見を今後の策定作業に活かしていただければと存じます。

続きまして、第2次那珂市総合計画基本構想（素案）、修正箇所抜粋でございます。資料の5になります。

ただ今、ご説明いたしましたとおり、基本構想につきましては、一度、総合開発審議会の審議を経ましたので、名称を「骨子案」から「素案」に変更してございます。内容については、大きな変更点はございません。前回の策定委員会での委員からの意見や、地区別座談会での参加者からの意見を踏まえた修正が中心となっておりますので、それらの修正箇所についてご説明をしたいと思います。

表紙をめくっていただきまして、7ページをご覧ください。

人口指標につきましては、前回の策定委員会におきまして、委員から「国調人口が平成22年までで、将来人口推計が平成29年からになっている。7年間飛んでしまう」という意見を頂いておりました。先日ですね、平成27年の国勢調査の確定値が公表されまして、その数値をグラフの中に追加したところでございます。またですね、本文中の文章・文言を修正してございます。

次に15ページをご覧ください。

まちづくりの基本理念の三つ目、「すべての人が輝く、賑わいのあるまちを目指します」の本文の文言でございますけれども、総合開発審議会におきまして、委員から「『学校教育の充実・強化』とあるが、強化という言葉は文脈になじまない」という意見を頂きまして、「強化」という文言を削除してございます。

16ページをお願いいたします。

将来人口の推計につきましては、昨年度策定しました「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の人口ビジョンを基に推計していたところでございますが、平成27年の国勢調査の確定値が公表されたということを受けまして、その数値を用いて再推計しました。二つのグラフのうち、上段の将来人口の推計のグラフを差し替えるとともに、本文中の文言を修正してございます。また、下段の産業別就業人口の推計のグラフにつきましては、数値は以前のままでございますけれども、将来人口の推計に合わせまして、5年間隔のグラフに変更してございます。なお、こちらのグラフにつきましては、平成27年国勢調査の就業状態等基本集計結果の確定値が来年4月に公表予定であるということから、その時にグラフを差し替える予定としてございます。

19ページをご覧ください。

施策の大綱の2番目、(4)の施策につきましては、「健康で快適に過ごせる生活環境を保つ」としていたところでございますが、市長以下、副市長、教育長及び各部の部長などが出席する庁議での意見を踏まえまして、文言を「生活環境を保つ」から「生活環境の保全を図る」に修正をいたしました。

20ページをご覧ください。

施策の大綱の4番目、「未来を担う心と文化を育むまちづくり」についてでございます。地区別座談会の参加者から『未来を担う心』という言葉に違和感がある」というご意見を頂きまして、文言を「未来を担う心」から「未来を担う人」に修正をしております。また、本文中の「学校教育の充実・強化」につきましては、先ほどの基本理念のところと同様にですね、「強化」という文言を削除しております。

21ページをご覧ください。

施策の大綱の6番目、(2)の施策については、「健全な財政運営を行う」としていたところでございますが、庁議での意見を踏まえまして、文言を「財政運営を行う」から「財政運営を図る」に修正をしております。

以上が基本構想の修正箇所となりますけれども、皆様のお手元には、資料6としまして、修正後の全文もお配りしております。こちらは、前回の策定委員会以降に修正した箇所が反映された内容となっておりますので、後ほど、ご覧いただければと思います。

なお、次回の策定委員会では、六つの施策の大綱にカッコ書きで記載しております31の施策について、それぞれの方針を加筆したものをお示ししたいと考えてございます。

説明は以上でございます。事務局といたしましては、ただ今ご説明しました修正箇所について、皆様から特にご意見が無ければ、この内容をもって、12月議会定例会での中間報告、そして、12月12日から来年の1月11日にかけて実施いたします、パブリックコメントに臨みたいと考えてございますので、ご協議のほど、よろしく願いいたします。以上でございます。

○議長（宮本俊美委員長） はい、ありがとうございます。基本構想の骨子案を皆様からの意見、あとは審議会、地区別座談会等からの意見を踏まえまして修正をいたしました。この修正箇所につきまして、皆様からご意見を頂きたいと思いますが、いかがでしょうか。はい、どうぞ。

○田中廣雄委員 田中と申します。意見ではないんですが、不勉強でちょっと分からない点がございますので、ちょっとその辺を教えていただきたいと思っております。人口指標の件なんですけど、7ページで結構なんですけど、国勢調査の結果と住民基本台帳の結果の差異がですね、ちょっと私が考えていた以上に大きいので、これらの差異は何が要因なのかを教えていただきたいと思っております。

第1次那珂市総合計画の174ページ、これの統計資料によりますと、住民基本台帳の平成22年の総人口ですね、こちらは56,110人となっております。それで国勢調査の方は54,240人。この差が1,870人。基本台帳の方が多いということですね。それで、あともう一つは、平成17年。こちら基本台帳では56,607人、この国勢調査との差異が1,902人ということでございます。4月1日と10月1日の調査月の関係はあるかと思うんですが、あとは、この大きな要因というのは、どんな部分で発生してくるのか教えていただきたいなと思って、今回来ました。

よろしく願いします。

○議長（宮本俊美委員長） 国調人口と住基人口の違いをご説明願います。

○事務局（関根企画部長） ありがとうございます。私の方からご説明をさせていただきます。まず、国勢調査ですけれども、これは5年に一遍、5年ごとに10月1日を基準日として、いわゆる那珂市全体を調査区という区域に分けて、実際に調

査員が世帯を訪問する形で、調査事項について調査表を書いていただいたものをあげていただいて、それを国の方で最終的に集計をして、人口、世帯とか、いろいろな諸々の調査項目について結果を出すという形でございます。

住民基本台帳につきましては、住民基本台帳に基づきまして、那珂市の住民基本台帳に記載すべき、いわゆる届出をした人の数を集計したものでございます。基本的には、いろんな税金とか、そういったものについては住民基本台帳人口、当然、住民登録をしている所でそういった権利とか、給付を受けたりとか、権利・義務と言うんですかね、給付を受けたりするものについては、住民基本台帳がベースになっております。

ただ、実際に住んでいる人の数というのは、国においても国勢調査によって把握するという事になってございます。この差異につきましては、実際、住民票是那珂市に置いてますけども、実際は住んでいないという方につきましては、これは住んでいる所で調査がされますので、その分については自ずと減ってくると。那珂市の場合なんかですと減ってくる。特に大学生の方で住民票を置いたまま東京の大学とか、そういった所に住んでいる方につきましては、住民基本台帳上は、那珂市の人口の数としてあがってきますけども、実際に国勢調査をしますと、その方は国勢調査の数字としてあがってこないということになりますので、いわゆる都市部においては、実際には、住民基本台帳の数字よりは、国勢調査の数字が多くなる傾向にあるでしょうけれども、那珂市のようなところにつきましては、国勢調査の数字が少なくなるということになってございます。

統計上、国においても実際の人口として使う場合には、統計上は、国勢調査の人口を使う。それに基づいて人口推計をするということで、人口推計の部分についてもこの数字を使って、国においても推計をしているということで、総合計画においても、国勢調査の人口をベースに推計をするということでございますので、国勢調査の数字が那珂市の場合は少なくなるということでございます。

こういった説明でよろしいでしょうか。

○田中廣雄委員 分かりました。ありがとうございました。

○議長（宮本俊美委員長） はい、ありがとうございました。そのほかご質問がありましたらお願いいたします。はい、副委員長。

○勝井副委員長 皆さん無いようなので、質問しますけど。まず、いくつか話しますけども、19ページ、1番の（1）から（4）までゴシックで書いてあるものがありますけども、（2）がどうも気になるんですね。誰もが住み続けたいと思えるまちづくりを推進する。具体的に言うとどういうことですかね。要するに、ここに書いてある施策をすべてやった結果、誰もが住みたくなくなるというふうに思うんだけど。これを目的にするというのは、ちょっと分かりにくい表現です。

それから1のところには、やはり男女共同参画の話をここに載らせるべきだと思います。例えば、5番でもいいですけども、やっぱり市内の、非常に女性は元気ですから、そういう意味で、男女共同参画社会をつくっていただいて、そういう施策はきちっと書いておいた方がいいと思います。

それから2番のところ、大規模災害って書いてありますけども、どうして地球温暖化のことは書かないのかなって、僕はいつもそう思うんですけども、もし、地球温暖化が嫌だったら気象災害でもいいです。近年、今年もそうでしたけども、気象災害って言

われるのは、世界的にもそうだし、日本でも頻発しているわけですよ、規模が大きくなっているわけです。そういう災害っていうのは、これからどんどん増えるわけで、そういうことに対する防災・減災ということは、とても大事なことになるのに、そういう認識がここにはないですね。地震や水害。水害っていうのは、それと関係があるかもしれないけども、ちょっとそういう認識の問題なんだけれども、どうしてそういうところきちっと書かないのかなっていう、そこが一つ不満です。

それからもう一つは、21ページの6番ですね。効果的・効率的って書いてあるんだけれども、どういうことなのかちょっとよく分かりません。もう少し、とにかく、これからお金が大変なんだから、市の財政が大変なんだから、施策はみんなやらないで重点化するか、そういうふうに具体的に書いた方が僕は良いと思います。効果的・効率的って具体的にどういうことで、何が効率的で、何が効果的なのかがちょっとよく分かりにくい表現ですよ。(1)にも書いてあります。効果的・効率的な行政運営を推進する。ここは、市の行財政改革のフィロソフィーとなる重要な部分ですから、やはりきちっと書いてもらいたい。

それから、(3)に多様なって書いてありますけども、多様な行政サービスって具体的にどういうことですかね。言葉がどうも、使い方が。お金があんまり無いんだからすべてに、いろんなことに手を回せないんじゃないかと思うんだけれども、多様って書いてある。そういうところが言葉として非常に僕は。

施策がたくさん書いてあるんだけれども、やはり全体的に重点化というのがこれからとても大事なことだと思うんですね。それで重点から漏れたところは、地区まちづくり委員会とか、そういうところでフォローしていくというやり方を市の施策としてとる必要があると思うんですけど。そういうフィロソフィーをちゃんと書いてもらいたいなと思います。以上です。

○議長（宮本俊美委員長） 3点ほど、今、ご意見がございましたけど、事務局の方であるでしょうか。

○事務局（篠原課長補佐） はい、ありがとうございます。施策の大綱にあります、六つの施策の大綱がございまして、それに対して各大綱に合うような各施策という位置付けになってございます。今後の進め方としましては、この施策に対して基本的な方針というものを作成してまいります。その基本的な方針の部分につきましては、次回の策定委員会の中でお示ししていきたいということで考えているスケジュールになっておりますけども。今おっしゃられました、その施策の中身の部分だと思うんですけども、そちらにつきましては、来年度策定します基本計画ですね、そちらの中の基本事業の中で、具体的にうたっていくということにございまして、例えば、今おっしゃられた、1のみんなで進める住みよいまちづくりの(2)誰もが住み続けたいと思えるまちづくりを推進するところの位置付けとしましては、今、想定している部分としましては、移住・定住を進めるためのシティプロモーション、PR活動、そういったことに関する事務事業などを位置付けるということを新たに加えているというのが(2)の部分になってございます。

それと、温暖化の話がございましたけれども、施策の(5)の部分ですけども、地球にやさしい持続可能な社会への転換を図るとありますけども、この中に第1次にはなる

んですけども、第1次的那珂市総合計画ではですね、地球温暖化対策と低炭素社会づくりというようなことを基本事業として掲げていたりですね、今おっしゃられた内容の中身としましては、今後、具体的に基本計画ないし、基本事業の中で具体的に進めていくものではないのかなというふうに感じているところでございます。

あと、最後の6の行財政運営の部分につきましてもですね、ここでは、抽象的な表現ということにはなってございますけども、具体的な中身としましては、効果的・効率的という部分については、行政改革をやったりとか、行政評価、地方分権、広域行政、先ほど定住自立圏という話もありましたけども、そういったことも含んでおりますし、多様な行政サービスという部分についてはですね、窓口サービスですね、そのあり方であったりとか、より便利な行政サービスを構築しようというようなことを第1次の時には、基本事業として掲げておまして、今までいろんな機会でも市民から意見を頂いたところでございますので、そういったことを踏まえまして、今後の基本計画ないし、基本事業を策定していく中でですね、もう少しきめ細かなと言いますか、そういったところで表現していければよろしいかなというふうに考えております。

○勝井副委員長 大体は分かりますけども、これから10年を考えると、やはり少子高齢化、それから人口減少社会が必ず来るわけで、それにどう対応していくかっていう、どう対応して、市の行政を進めていくかっていうことがとても大事なことなんでしょう。それとやはり双璧なのが気象災害だと思います。これから要するに、COP23ですか、COP23が行われているけども、2℃目標があっても、それが到達できない可能性が非常に高いわけですね。だから、そういう少子高齢化という社会と、それから災害が度々起こるような社会がこれから来るわけですね。だから、そういう意味だと思うんです。そこを絶対に見逃しちゃいかん。それに対する対策を今からちゃんと考えないといけない。要するに防災・減災ということを考えていかないといけない。そこをちゃんとやらないといけない。市の施策の中にきちっとそれを盛り込んでもらいたい。全体のフィロソフィーとして盛り込んでもらいたい。

それと最初の1ページ目に戻りますけれども、ここでも、前に申し上げなかったけど、(1)の上から5行目ですね。地方創生により経済の好循環を全国に広げ、豊かな暮らしを次世代へとつないでいくためにと。こう書いてあります。こういう認識は、本当は持って欲しくない。これは感想です。経済の好循環、これから続きますか。今、とても世界的にイギリスでも、それからアメリカでも、いろんな事態が起こっているわけですよ。韓国もそうだし。とにかくグローバル化っていうのは、今、日本だけが進めようとしているわけで。そういう意味で、その経済の好循環を全国に広げ、これから10年間続いていくと、更にそれがその後も続いていくとは思えないわけです。やはり要するに「みみっちい」かもしれないけれども、貧しいというか、質素な暮らしをこれからしていかなければ、地球は破滅するわけですよ。そういう認識をきちっと持たないと、総合計画はできないと思います。そういう意味で、これは僕の感想です。だから、市が豊かな暮らしを次世代につなぐためにいろいろ施策をするんだっていうんだったら、それでいいけれども。僕はそういう点がないと、やはりこれから10年間の計画というのは作っていけない。そういうところをきちっと認識してもらいたい。そういうふうにあります。

○事務局（関根企画部長） 今、勝井副委員長からいろいろご意見を頂きましたので、補足で私の方から、いろいろご説明をさせていただきたいと思います。

まず、19ページからの施策の大綱の中の施策につきまして、非常に抽象的で具体性がないような表現になっているというご指摘があったところでございます。何箇所か。これにつきましては、なかなかこの段階で具体的に表現をすることになりますと、総合計画は最上位計画でございますので、いろんな意味で各行政分野を、ある程度網羅できるような施策が表現できるような文言にしたいという考えがございましたので、こういう形で若干、この施策だけが書いてありますと、非常に分かりづらいという印象があったのかなというふうに思っております。先ほど、篠原の方から説明いたしましたとおりですね、1月の第4回の策定委員会には、それぞれの施策の基本目標と施策の基本的な方向、それと併せまして、アンケート調査やワークショップとか、そういったもののご意見を踏まえた中で、重点的に取り組むべき内容等を踏まえた形で、文章表現をしていきたいなというふうに考えてございます。そういった中で反映をしていきたいというふうに考えてございます。

それと、地球温暖化のお話ですけれども、施策の大綱の2番、安全で快適に暮らせるまちづくりの中の最初の1行目のくだりの中でですね、地球温暖化に対する懸念とか、そういった文言が入るかどうかな。いわゆる「近年、地震や水害などの大規模災害」のところの中にですね、文言として挿入ができないかどうか、そこは検討をさせていただいて、入れるような形で書き込みができるかどうか、検討させていただきたいというふうに思っております。施策の（5）の中にですね、先ほど申しましたように、地球温暖化対策というのは、後期でも基本事業の中にですね、表現をさせていただいて、そこに位置付けをさせていただいておりますので、今回もそういった形で、そこについては、再生可能エネルギーの利用の普及ですとか、地球温暖化防止ですとか、そういった諸々についてですね、その辺について、具体的にそこには書き込みをしたいと。

それから男女共同参画については、やはり施策として出すべきか、それともここでは1番のみんなが進める住みよいまちづくりの（4）互いに尊重し合う社会の形成を図るということで、人権の尊重と、当然、そういった部分も男女共同参画の中にいろいろございますので、こういった中で男女共同参画というものをきちっと位置付けられるような形にしたいと思っております。この施策の中の一つとして1億総活躍社会とか、そういった部分で女性の活躍推進法なんかもできてますんで、具体的に施策として格上げをして、そここのところに書き込むべきかというところは、議論のあるところだと思いますけれども、かなり重点的な、優先的に取り組む事項として、そここのところは表現をしていかななくてはならないのかなというふうに思っております。

それから、6番の行財政改革の推進による自立したまちづくりの効果的・効率的な行政運営。これについては、いわゆる「最少の経費で最大の効果をあげる」ということのための施策について、勝井副委員長がおっしゃるような、なかなか財政状況が好転する見通しが立たない中で、やはり最少の経費でいかに効率的な行政経営をしていくかということを中心に、この中で、そういう意味合いとして効果的・効率的という表現を使わせていただいたということでございますので、それはご理解をいただきたい。

それと、一番最初の大元のところ、1ページのところにありました好循環。これは地

方創生の中でも、国の方でも、そういうくだりを使っています。地域における経済の好循環により持続可能な社会をつくっていくというような趣旨で、なにも経済が拡大再生していくというふうなことではなくて、いわゆる地域が動くこと、雇用とか、いろんな意味で地域が回ることによって、地域の活性化をしていこうというような意味合いがありますので、ここは国の方針で定まっているものを使わせていただいたということでございますので、現在そういった方向性で進めておりますので、地方創生の総合戦略においても、そういう形で進めておりますので、このくだりについては、こういう表現を使わせていただければというふうに思っております。

貴重なご意見ありがとうございます。

○勝井副委員長 どうもありがとうございました。僕は、大綱だから、せっかく大綱だから、大まかに具体的な施策はいらないと思いますけれども。ただ、言葉ですね。言葉がやっぱり市民から見た時に、こういうことを市の方では考えているんだよということが分かるような言葉で書いてもらいたい。そういうところをちゃんと吟味してもらいたい。そういうふうに言っているんです。そういうことですので、誤解のないように。

○事務局（関根企画部長） はい、ありがとうございます。

○議長（宮本俊美委員長） はい、ありがとうございました。そのほかご質問ありますでしょうか。よろしいでしょうか。ありがとうございました。

イ その他

○議長（宮本俊美委員長） それでは、その他の方で、事務局でありましたらお願いいたします。

その他の方は無いようでございます。今日の案件につきましては、以上でございます。それでは、事務局の方にお返ししたいと思います。ありがとうございました。

(5) 閉会

○事務局（浅野課長補佐） はい、ありがとうございました。長時間にわたり、貴重なご意見、ご審議をありがとうございました。

以上をもちまして、第3回那珂市総合計画策定委員会の方を終了させていただきます。

なお、第4回の策定委員会でございますけれども、来年、年明けですけれども、1月25日（水）午後2時からを予定してございます。こちらの会場で開催したいと考えております。開催通知につきましては、後日、改めまして送付の方をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

本日は、大変お疲れ様でした。ありがとうございました。